A19 ソロモン諸島におけるマラリア媒介蚊の調査（1）Human-Bait Collection における Parous rate の変動

○村主 節雄¹, 藤本 千草¹, 原田 正和¹, 石井 明² (¹香川大学医学部国際医動物学講座, ²自治医科大学医動物学講座)

Survey on the Vector Mosquitoes of Malaria in Solomon Island (1) Flactuation of Parous Rate on Human-bait Collections

Suguri, S., Fujimoto, C., Harada, M., Ishi, A.

ソロモン諸島ガダルカナル島の Tamboko とマライタ島の Fiu において Human bait 法によりハマダラカ成虫を1時間単位で採集した。延べ12 night x people の採集で178匹を得、種は全て *Anopheles farauti* であった。卵巣表面の気管細管の形態により、Parous rate を調べた。その結果午後11時以前は11～50%（平均24.4%）と低い、11時以降は62～86%（平均79.5%）と高く、顕著な差が認められた。共同研究者：Hasan ArifUL-(Dept. of Intern. Med. Zool., Kagawa Univ., 川端真人（神戸大学、国際交流）

A20 スマトラ沖津波被災地における被災後の感染症媒介蚊発生状況の粗調査報告

○高木 正洋, 砂原 俊彦, 前川 芳秀（長崎大学熱帯医学研究所・生物環境分野）

Brief report on vector mosquito infestation in The Sumatra Tsunami disaster areas

Takagi, M., Sunahara, T., Maekawa, Y.

スマトラ沖津波の被災地域中スマトラのバンダアチェ市とその周辺(1月23日-31日), 及びスリランカ東南部と南部の4県(2月18日-3月1日)における津波後の蚊発生状況を視察した。バンダアチェでは被災前のデータがなく真の比較は出来ないが汽水域の拡大が顕著と思われ, *An.sundaicus* が津波最前線に沿った2ヶ所の汽水から採集された。スリランカでも海岸沿いに汽水域は散在したが広大なものには遭遇しなかった。淡水域を含むいくつかから *An.subpictus* 他数種を得た。南部はフィラリア流行地である。汽水化した水域(被災地)では *Cx.quiquefasciatus* が採集されず(津波前は多かった), 非被災地の淡水域では変わらず多数採集された。 *Aedes* を含め総じて調査時点での蚊媒介性感染症流行リスクは大きくないと判断した。津波で沿岸水生生物環境が一旦 all clear されたというのが実態であり, 復興過程でのサクセッションの精査こそ学術的にも社会貢献上も大切である。